

審議会会議録

| | |
|---------|--|
| 審議会等の名称 | 令和6年度 第4回瑞穂市こども・子育て会議 |
| 開催日時 | 令和7年2月25日(火曜日) 13時30分～15時00分 |
| 開催場所 | 瑞穂市役所 穂積庁舎 3階 第1会議室 |
| 議題 | (1) 瑞穂市こども計画（最終案）について |
| 出席委員 | 秋山博委員、朝日美妃委員、河村岳昌委員（副会長）、清水恵子委員、田中佳織委員、土岐祥子委員、豊田千晶委員、成瀬幸太郎委員、西垣吉之委員（会長）、矢野幸子委員、若園明裕委員、渡瀬広子委員、割石裕美子委員 |
| 欠席委員 | 高見順委員、矢崎齊委員 |
| 公開区分 | 公開 |
| 傍聴人数 | 2人 |
| 審議の概要 | <p>1 開会 委員15名のうち、13名が出席。出席者が過半数以上となり「瑞穂市附属機関設置条例」第8条の規定により会議が成立した。</p> <p>2 あいさつ 市長よりあいさつ。</p> <p>3 議題 「瑞穂市審議会等の設置、運営等に関する要綱」第11条の規定により原則公開することを確認した。</p> <p>傍聴者2名あり</p> <p>会議録については要点筆記とし、発言した委員の氏名は実名表示しないことを確認した。</p> <p>事務局より「瑞穂市こども計画」（最終案）について説明 パブリックコメントが0件であったことの報告 最終確認のため、全体での意見を依頼 今年度最終となることから、1人ずつコメントを依頼</p> |

(質疑・意見)

【会長】

こども計画の概要版はどこでどのようなタイミングで配布するのか。あるいはどんなところにこの概要版を案内するのか、あるいはネットを通して何かそういう触れるような機会を設けるのか、せっかく出来上がったものなので、必要な方に必要な情報が届くととても大事な基礎資料になるものですので、そのあたりについては今事務局ではどのようにお考えですか。

【事務局】

概要版はホームページに掲載し、新しくできた子育てアプリにも掲載し PR していく予定です。

【A委員】

こども計画は「こどもがまんなかで、自分たちが考える」ということで、やさしい版は大人に配るのではなくて、瑞穂市を担っていく子どもたちに伝える機会があるといいと思います。

【B委員】

こども計画は子ども・子育て会議の委員だけではなくて、やはり小学校も中学校も、それから子育てしている住民の方にも知ってほしいと思います。

そして、牛牧第2保育所の子育て支援センターが来月で閉鎖となり別府保育所の子育て支援センターに統合するということになっています。保護者の方が最近この閉鎖を知って、すごくショックを受けています。どうして瑞穂市はこれだけの人口にもかかわらず、公立の子育て支援センターが1つになってしまうのか。本当にショック、ショックというように、毎日声を聞きます。「何とかならないのかと市に伝える機会や方法があればまたお伝えはします」というようにはお話していますが、やはり今の若いお母さん方とはとにかく居場所が無いですね。こどもと一緒に過ごす場所というのがなくて、やはり支援センターが一番の居場所として考えてみえて、計画の中にも親子で過ごしやすい場を作りますということもあるため、計画だけで終わらずに、居場所づくりを進めていっていただけると嬉しいなと思います。

【A委員】

子どもたちは自分の意見を出したことに対して大人がどう考えてくれているのか、何か返事がほしいはずですし、市はこういうことを考えている、また途中経過がこうだとかお知らせしてほしいと思います。

例えば、計画の中でCCNセンターの2階にフリースペースを整備するということでしたが、それを整備したら終了ではなくて、大人が考えるのではなくて、どうしたら管理しやすい、使いやすいのか、こどもや・若者で施設を使用する人が考えるような仕組みで、いろいろディスカッションしながら、集まる場所にすることが、こどもの力をつけていくことにもなると思います。

手間はかかりますが、そういったことを積み上げていく過程が大事で、それこ

そがこどもたちにとって自分たちが使う場所という意識になっていくと思います。

先日、本巢市がこども権利条例を作りましたという新聞の記事を読みました。その中に小中学生が関わったということ、仲間と安心して幸せに生きていることができているかということ問い続けながらその権利条例というのを作ったということが書いてあって、とても大変な作業だけど、それだからこそこどもたちが自分事として考える。こどもたちは実際、力があると思いますので、そこを瑞穂市も可能になるといいなと思っています。

【会長】

私も本巢市の計画にも関わってきましたが、本巢市では本当にこどもたちを中心に置かってどういうことなのかというのを真剣に考えた過程があり、それが権利条例を作るきっかけになったようです。

計画という器はできましたし、制度としてもこういう風に頑張っていくよというのにはできましたが、そこに命を吹き込んでいくときに、こどもを中心に置くこととはどんなことだろうかと考え、この5年の間に何らかの成果が見えてくるというのが評価の観点になってくるかと思っています。

【C委員】

1人ではどうしようもないときにこどもを預けたいとか、本当に病気の時だけ見てほしいとか、そういう困ったときに、預ける先は多分探せばあると思いますが、金額が高かったりすると、正直もうちょっと自分で頑張ろうとか、ぎりぎりまで頑張れるかもという感じで、1人で頑張ってしまうことがあると思います。物価が値上がりして本当に子育てで食事もそのほかのことにもお金がかかったりして、お金を出せば頼れるところはたくさんあると思いますが、現実的に毎日預けるわけにもいかないし、月に1回ぐらい預けてみたいという時もあると思って、この金額で1時間だけ預けてもリラックスもできないし、それなら1日預けたいという本当に自分との戦いがあると思います。困ったときに、もう少し補助があって、使いやすい金額だといいなということを正直思っていました。

気兼ねなく使える施設になるといいなと思いますし、それだけみんなに浸透して、寄り添ってもらえる施設や制度がたくさんできるといいなというのを感じます。

例えば、ゆーみんぐという温水プール施設がありますが、その回数券が11枚大人5千円の回数券が買えますが、瑞穂市は年齢40歳以上のかたが回数券は半額になるという補助はありますが、他の市はほとんど年齢制限なく回数券の割引が使えます。瑞穂市としては健康を維持していくために、こどもにやさしくないと感じました。浅いプールもあったりして使いやすいプールなのになんで瑞穂市はこどもも若い保護者も補助はないのかなというのをちょっと個人的に感じま

したので、検討していただけると嬉しいと思います

【会長】

牛牧第2保育所の子育て支援センターが閉鎖になるという話をさきほど伺いましたが、何か事情があったのでしょうか。

【事務局】

今年度の現状として市内に子育て支援センターは全部で5か所あります。2つは公立の子育て支援センター、別府保育所と牛牧第2保育所の2か所です。あとは私立の支援センターになります。

牛牧第1保育所が7年度に公私連携で民間移行するのに伴い、牛牧第1保育所の移行先が「はなみずきこども園」という認定こども園になります。そちらに子育て支援センターが開設になりますので、牛牧校区には支援センターが新しくできます。また地域のバランスと、子育てのアンケート結果もニーズは横ばいという状況でした。また、瑞穂市は今年度未満児保育の待機児童があることから牛牧第2保育所の未満児は定員いっぱいまでお受けをされていて、より安全な環境で保育をするために今子育て支援センターとして利用している部屋を未満児の部屋として活用して、公立の子育て支援センターは別府保育所に統合し、1人保育士を増やしまして、牛牧第2保育所に来ていた方も別府保育所やはなみずきこども園の方を利用していただきながら、安全な未満児の保育ができればというような意向でそのように考えさせていただきました。

【B委員】

ほづみの森こども園の子育て支援センターは人気があり、すぐ定員がいっぱいになるので、牛牧第2保育所の子育て支援センターに地域のかたは来ていただいていた。月齢の低い子のお母さんはやはり牛牧第2保育所が居心地の良い場所ということでたくさん来てくださっていたので、市の事情で閉鎖になってしまうというのは、理解してくださいますが、やはりどの保護者も本当にショックと毎日お話を伺います。別府保育所の子育て支援センター1つだけではとても入りきらないのではないかと、駐車場もいっぱいになって、今度はどこへ行ったらいいのかという話をたくさんお聞きします。市外にもたくさん子育て支援センターがあるので、検索して行っている保護者の方もいますけれども、そんな状況で、今利用している保護者の居場所がないということで結構皆さん悩んでいる方が多いということだけは耳に入れておきたいと思っています。

【会長】

新しく「はなみずきこども園」ができるので、そこでどんな風な支援の在り方というのを求めていかれるのか、それも継続的に見ていただきながら行政の方も丁寧に見ていただければいいなという風には思います。

いろいろな制度はまとまりましたが、結局動かしていくのは人材ということになると思いますし、一方でこれは本当に、例えば今回のこども計画を立てるにあたってこどもたちの意見を出してもらったけれども、どこまでどんな風に、大人側とこども側が折り合いをつけていくかというのも実はとても大事な視点だと思っています。すべてを受け入れることはできない。それは財政的にも受け入れることができないというのはちょっと前提として持ちながらも、少しでも譲歩するというか、お互いに自我を出し合って少しずつ折り合いをつけていくというその自我の譲り合いだと思うのでその5年間というのがこれからちょっと楽しみに見たいと思っています。

【D委員】

第3期こども子育て支援事業計画のところでは、令和7年度以降予測する人数、いろんな施設がありますが、どういうことに基づいてそういう数値が出ているのか。市としてのビジョンが、人口がどの程度の規模になって、市としていろんな魅力ある事業を展開していくということで、後ろ向きものは含まれて計画しているのかいないのかが心配です。特にこどものことに対しては国も危機感を感じて、こどもの支援というのを国の施策でやっていると思いますし、それぞれの市町村ではそれに応じたような展開をしていくという流れもできてきましたが、その流れが絵に描いた餅にならないように、しっかり市民としてこどもも希望を持てる市になってほしいと思っていますし、市民も頑張ってもらいたいという思いがあって、そういうところ見守ってほしいなと思います。

【E委員】

いろいろな施策があることなど知らないことが多かった。生活してきて苦しいと思ったときに吐き出す場所も知らなかったのも、もっといろんな方にこういう情報を知る機会があるといいなと思いました。

【F委員】

こどもが実際にアンケートに答えた結果を見るのがすごく楽しくて、数字だけじゃなくいろんな意見がリアルに伝わって楽しく拝見しました。声を出したことがこういうグラフになったとか、こういう施策になったよというのは知ってほしいですし、知ったことで自分の挙げた声はこういう風に反映された。もしこれが難しいなら理由も説明してもらえたという手ごたえがやっぱりこどもに伝わっていくといいなと思います。こどもまんなかの意味がどんどん主体的になっていくといいなというのを強く望みます。

先ほど居場所ということで、子育て支援センターもいくつかはあるし、たくさんあって充実しているというのはわかりますが、親としては公立だと行きやすいというのが正直ありました。気軽に行けるというのが一番で、私立も行ったことはありますが、私立はその施設の特色が出ているし、いつも決まった方がいる

というのはよく聞きますが、スタンプカードを貯めてとか、いくら払ってとか、各施設によってシステムがあって、行くハードルが高くなることもあります。公立だと何もなく登録したら行きたいときに行けるイメージがあるので公立だとやっぱり行きやすさがあります。

市外の支援センターも利用していましたが、市外の施設でも、ほづみの森こども園は人気があって予約が取れないと聞いて、瑞穂市から保護者のかたがたくさん来ているよというのは聞きましたので、市内で行けずに市外に行っているというのがあると思いました。

【会長】

公立だと行きやすいという、そのニュアンスは何となく感じるものもありますね。私立は基本的には独自の理念に基づいて運営していますし、雰囲気も全く違うと思います。瑞穂市は今まで公立の果たす役割というのを非常に大事にしてこられた市であるという風に思っていて、民営化という流れの中で、この公立の果たす役割というのも行政としてこれからどんな風に考えていかれるのか、これは非常に大きなテーマになると思っています。

【C委員】

瑞穂市のことをたくさん知ることができましたし、たくさん考えることができました。どうしたら市がより良くなるのかなというのを考えて、たくさんの方の施策も考えてもらって、たくさんの方が動いていらしたと思いますが、ゴールは本当にこどもたちの幸せとその周りの方たちの心や生活の安定かと思っていますので、またそのゴールを見失わないように少しずつ良くなっていったらいいなと思いつつ、心から願っています。

【副会長】

【C委員】は瑞穂市に転入した経験を背景にお話しただいていましたけれども、だからこそすごく新鮮で、客観的にこういった瑞穂市の状況とか、何か見ていただいていたところがあつたとすごく感じて、まさにこどもを真ん中に置いたご意見をいろいろいただけたという風に思っております。

【G委員】

瑞穂市は虐待の数がどんどん増えてきていて、特徴としてはほとんどのケースが遠い地域からの転入とか、祖父母がいない人で本当に頼る人がいないケースがほとんどです。事前に相談に来てくれたらいいのに、限界ギリギリまでやっても無理という、もう顔を見たくないし育てたくないというすごく極端なところで相談に来る方がすごく多くて、その間を埋めるいろんな事業や、その間を埋めることがこの計画の中の施策でできたらいいなと思います。積極的な保護者は自分で調べられますが、ほとんどの人がそんなことをする暇もないという状況で、ど

うやってそういう家庭にこういうものを伝えていくのがいいのかなと思います。ただし制度を知っている人でもお金がネックになっているところもあって、せっかくいいものができたと思いますので、上手にと制度を活用できるといいなと思います。

【副会長】

制度の間を埋めるものはなかなか公だけじゃ担いきれない仕組みや制度だと思っています。そういったところに関してこういった民間力との協働であるとか、そういった緊急的な施策が市に対して助成金事業とかそういったものが出たときに、それを担っていけるような、市の団体であるとか、そのような基盤作りも必要になってくると思います。

【H委員】

瑞穂市に転入して子育てをしてきて、まったく情報を得る時間もなく、いろいろな市町を転々としているので、どこがどうなのかもわからなくて予防接種にしても市町によって違うので正直わからなかったです。そんなときに電話をしたらちょっと冷たい対応だったりすると、もうそこでシャットアウトするという状況でした。もう限界を感じてしまったときに、市にこういう相談する場所があるのはわかっているけど、私は仕事柄行きにくかったですし、気持ちも弱いので行けなかった。ただ、私は乗り越えることができたのでよかったです、すごく迷っている、悩んでいるのに全然話すところもないという人はたくさんいます。行政のところには行けないけど幼稚園や保育所の先生なら相談できるとか言う保護者もいて、もっと身近に何かもっと潜在的に悩んでみえる人をもう少し何とかできないかなと思います。

計画についても何か例えば紙芝居であったり、映像だったり、字は読めないけど、悩んでいたらそういう風にすればいいのかというものがわかりやすく伝わるという風な風に思います。正直言うと最初は瑞穂市に対してあまりいいイメージがなく、本当に冷たいなと思っていたこともありましたが、そこから5年ぐらいしてからとても子どもにやさしい市になってきて、私はいろいろなお母さんに、瑞穂市さんは本当にいいよという話をしていて、仕事でもいろいろな市町村と関わるからこそ瑞穂市がものすごく今いい市だというのがすごくわかりますので、これからもどんどん良くなっていてもらえればと思います。

【I委員】

ある市町は小中学校を合併して実際は教職員も人員カット。次にすべての保育園、幼稚園を民間委託に。そんなことを一度にやっていいのかという思いがあります。ある市は、1歳半健診、3歳児健診は国が定めている健診ですが、2歳児健診というのは決まっていなくてもやりますという目標がありますが、財政的に2歳児健診はやりませんという市もあります。そうしたら、保健師さんは

1歳半から3歳まで子の様子をなかなか見ることができないから、不安で仕方がないです。発達障がい疑いなども保健師さんの考えは入れずに、検査だけをやってデータだけで判定する。そんなことがこどもにやさしいまちなのかという市町もあります。

先週にはこどもの自殺も統計史上最高の数値が発表され、かなり衝撃が走っています。

【J委員】

今はみんな「ゆとり」がないですね。こどもが小学生になるまでは、自由の時間がなく自分の近くにいると息苦しくなることもあります。

そうするとやはりどこかで息を抜く場が必要になります。こどもも親も。そうするとまた気分が変わって、うまくまわっていく。そういうものはお金が絡んできてしまうけど、時間を与えるというか、時間をくれるみたいな感じで、行政が何か年に1回とか2回とか、1日保育しますよとかしてくれるといいかなという思いはしています。

【会長】

こどもたちとずっと関わってきて、すごく幸せな気分させてくれるけれど、ちょっと1人で息抜きしたいと思うことはあります。そこがやはり親として抱える、自分の人生を親と生きているというところだと思えますけれど、そこで今はいろいろ悩むのは当たり前という風に思っていないということ。そこをあえて我慢してやる時代ではないと考えないといけないかもしれません。

【K委員】

私はUターンで瑞穂市に戻ってきて、運がいいことに、瑞穂市は今まですごく育てやすいと思うことばかりで、妊娠中も市の方とか保健師にすごくお世話になったり、声をかけていただいたりして、他の友達にも瑞穂市に来てほしいと言っています。この会議に参加して初めて自分の知らなかった課題だとか、問題がわかりました。でもそういった風に瑞穂市はこどものためにいろんなことを考えている市で、基本的に住みやすく子育てしやすい市だと思うので、困っている人とか課題、問題がある人にどうやってそれを伝えられるかという発信の方法を工夫したらいいのかなと思いました。

【副会長】

みなさんのご意見をいただく中で、この会議に参加していただいたことに関するそれぞれの意義、瑞穂市に対して今の仕組みに対してもすごく前向きなご意見をいただける委員の皆様が多くて、一緒に参加して最後ほっとできました。

こういった計画とか委員会の中において、当事者であるこどもや若者がいるのかというところが結構課題になるところかなと思います。実際こどもの居場所づ

くりで関わっていく中で、こどもたちからすると、ようやくたどり着いた居場所を、大人の事情でそれをなくすというのはこどもたちに二重の否定を与えてしまうことになると思います。だからこそ、居場所という箱を作るだけでなく、そこに誰がいるのか、どんなことに向き合ってくれる人がいるのかというところが大事で、フリースペースを整備していく話もありますが、是非とも生きづらさを抱えた当事者の若者やこどもたちで、今生きづらさを抱えている自分に手を差し伸べてくれるような、そういったものになっていくといいなと思っています。

【会長】

瑞穂市の委員の皆さんがすごく素直に自分の思いを出していただけたので、それを行政の方で受けていただきながらこんな素敵な計画ができたと思っています。自分は保育現場の経験もある。瑞穂市の保育所の先生方、幼稚園の先生方と関わりがあるため、瑞穂市は育てやすいまちだという風に、現場の職員それぞれ、保育園の先生、幼稚園の先生だけに限らず、本当に行政の1人1人にもぜひ届けたい、何かそんな思いを持ちました。もしかしたらこの会がそれにお役に立てていたのかもしれないなと思いながら、何か嬉しい思いをしています。

子育ては当たり前ではないということを引きちとみんなが認識をしないといけない。子育てはできて当たり前ではなくて、親はこどもを育てながら順番に親になっていくというそういう感覚というのをもう1回持っていただきたいと思いますし、その過程で助けてほしいということと言える、そういう人に育てていけないといけないと思っています。小さいころからの保育とか教育の在り方というのがいずれその人の人格の形成においてすごく大事になってきますが、その時にできない自分をちゃんと受け止めて、助けてと言えるようなそういう人に育てていくというのがもしかしたら一番やっぱり今これからの世の中を生き抜いていくために必要なことかなという風にいつも思っております。1年間ありがとうございました。

【事務局】

来年度はこども計画の中にありますこども子育て支援事業計画の進捗について会議を行う予定です。皆様の任期が令和7年11月6日までとなっていますので、それまでに1回予定をしていますので、日程については個別にご連絡させていただきます。こども計画の製本が出来上がりましたら、送付させていただきます

4 閉会

| | |
|--------------|---|
| | |
| 事務局 (担当課) | 瑞穂市 健康福祉部 こども支援課 TEL 058-322-3022 FAX 058-327-1566 e-mail kosien@city.mizuho.lg.jp |